

北前船 開拓の歴史関連 観光建造物との関連 で小樽街ガイドを考える

北前船とニシン漁業の発展によって栄えた小樽の歴史

《テキストにある歴史ガイド出来る観光施設》

鯨御殿・番屋・旧青山別邸・運河・各倉庫群

堺町通・田中酒造又は亀甲蔵、他



Jエコツアー(株)

北海道ガイドテキスト

泊村のニシン親方、田中福松氏によって明治30年に建てられた、「小樽市鯨御殿」だ。現在は、小樽の街を見下ろす高台に移設復元されている。道内の民家で初めて北海道有形文化財にも指定され、総面積は611.9平方メートル、約540トンの材木をふんだんに使った贅沢なつくりの建物には、全盛期120人ほどのやん衆が寝泊りしていた。

小樽には他にも、小樽三大網元の 1 つ青山家の別邸「にしん御殿小樽貴賓館」が小樽市鯉御殿から徒歩 15 分ほどの場所にある。あわせて訪れてみてはいかがだろうか。



小樽市鯉御殿

・住所 小樽市祝津 3 丁目 228 番地

・電話番号 0134-22-1038

毎年 3～6 月に産卵するニシン。大群となってやってくることを群来(くき)といい、海は白濁、空にはカモメが飛(衆)は我先にと舟を出した。やん衆の多くは東北地方からの季節労働者で、1 年間の生活が春先の漁にかか(が寝泊まりしていたのが、網元の居宅兼漁業施設、通称「ニシン御殿」、別称「番屋」だ。

https://bravo-m.ismcdn.jp/mwimgs/d/b/1320wm/img_db627931d322d52346e81a05133b2082290742.jpg

毎年 3～6 月に産卵するニシン。大群となってやってくることを群来(くき)といい、海は白濁、空にはカモメが飛び交い、漁師たち(やん衆)は我先にと舟を出した。やん衆の多くは東北地方からの季節労働者で、1 年間の生活が春先の漁にかかっていた。そんな、やん衆が寝泊まりしていたのが、網元の居宅兼漁業施設、通称「ニシン御殿」、別称「番屋」だ。

北前船きたまえぶね

北前船とは、江戸時代から明治時代にかけて日本海海運で活躍した、主に買積みの北国廻船の名称。買積み廻船とは商品を預かって運送をするのではなく、航行する船主自体が商品を買、それを売買することで利益を上げる廻船のことを指す。当初は近江商人が主導権を握っていたが、後に船主が主

体となって貿易を行うようになる。蝦夷地開拓の始まりの際、政策として小樽に北前船を寄港させることに成功し、小樽からの交易積荷は主に「鯨粕」で瀬戸内へ運ばれ、お米や野菜、綿の着物などと交換交易をした。※北海道は寒冷地でお米の作物は作れなかったため、交易で本州からの移民和人に對し必要なものを確保し蝦夷地開拓を進めていった。

※小樽→祝津エリア(小樽)→余市→小樽 ガイド

小樽・祝津の日和山には明治 16 年に点灯された灯台があり、周辺には泊村から移築された鯨番屋(鯨御殿)や明治・大正期に鯨漁で巨万の富を築いた親方の青山家が2世代にわたって建てた約 1500 坪にも及ぶ住居(旧青山別邸)があります。余市港は慶長 4 年の松前藩余市場所までさかのぼる大変古い歴史を持つ港で、積丹の豊富な魚介類を北前船に乗せて、遠く北陸や大阪まで運んだ時代もありました。昭和 44 年開館時の水産博物館はテーマの一つが“ニシン漁のすべて”、千石場所だった余市の様子をわかってもらうため、ニシンにゆかりのある資料すべてを集めることにしたそうです。松前藩が行っていたアイヌ民族との交易を請け負った商人が経営の拠点とした建物(=運上家)のひとつ「旧下ヨイチ運上家」や、ニシン漁を行っていた建物群「福原漁場」にも足を運びます。一方、フゴッペ洞窟は岩壁に刻画を残す洞窟遺跡で、現在日本国内において対比されるものはありません。800 を超す刻画があり、人が仮装したようなものから舟、魚、海獣、4本足の動物のようなものがあります。北海道固有の縄文時代に属する遺跡です。

旧北浜地区倉庫群 **かつての倉庫街の面影を今に**

旧増田倉庫(明治 36(1903)年築)、旧広海倉庫(明治 22(1889)年築)、旧右近倉庫(明治 27(1894)年築)。当時の手宮駅と港に近く、海陸の輸送と貯蔵に最適の場所に建造された。3 棟の大規模倉庫

